

令和5年度(2023年度)第2回学校運営協議会 議事概要

1. 日 時 令和5年(2023年)11月21日(火) 18時00分～19時30分
2. 場 所 豊中市立大池小学校 校長室
3. 出席者 (委員)8名(定数9名)
(事務局)校長、教頭
4. 次 第 (1)新しい委員の紹介・挨拶
(2)学校の取組みについて
(3)令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査結果について
(4)熟議「学校と地域の行事について」
(5)連絡

【議事概要】

(1)新しい委員の紹介・挨拶

○小島委員(元豊中市立小学校長)の紹介・挨拶

- ・「大池小学校の子どもたちがどう育ってほしいか」について、この町で育ち「大池っ子でよかった」と思えることが一番である。

(2)学校の取組みについて

○学校の取組みについて、会議資料に基づき事務局より説明を行った。

- ・学習道具として日常的に活用が進む一人一台タブレット端末、「着衣水泳」授業(9月)、豊中市社協と連携した「車椅子体験」等(9月)、大阪弁護士会と市こども安心課と連携した「いじめ予防出張授業」(9月)、大池地区「敬老のつどい」参加(9月)、学校給食センター調理員と「給食をいっしょに」(9月)、全校児童での運動会(10月)、大池地域安全センター子どもの見守り活動協力ボランティア(月1回)、「スマートフォン・SNS・情報セキュリティー」学習(10月)、「稲刈り」体験(11月)、大池万博2023(11月)、大阪音大と連携した「サウンドスクール」(11月)、関西学院千里国際中等部・高等部SDGs for Childrenと連携した「ユニクロ“届けよう、服の力”プロジェクト」(11月)、計画委員会を中心にいじめ予防啓発グッズ・オリジナル「大池ノート」の取組み(11月)、大学生の教育実習、インターンシップの受け入れ、2学期の校外学習等。
- ・コロナ禍で不足していた児童の体験や学校行事の取組み等を積極的に取り入れた。

(主な意見要旨)

- ・「スマートフォン・SNS・情報セキュリティー」学習については、健全育成会でも「パパ活」、「グリ下(グリコの看板の下)」、薬物等心配な事案が増えてきている。また、低年齢化の問題もあり対応していく必要がある。
- ・5年の稲刈り体験は、学級園の田の面積は狭く収穫量も少ないが、児童の貴重な体験となっている。

(3)令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査結果について

○令和5年度(2023年度)全国学力・学習状況調査結果について、会議資料に基づき事務局より説明を行った。

- ・国語、算数とも全国平均を上回る。
- ・国語では、話や文章の中心となる語や文を捉えることはできており良好。複数の情報を

整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

- ・算数では、式を日常生活と関連付けて読み取ることはできており良好。図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や軽量について考察することに課題がある。
- ・児童質問紙では、基本的な生活習慣や友だち関係、タブレット端末の活用、国語と算数の授業内容が分かる等は全国平均を上回っていた。学級での話し合う活動や協働的な活動、国語の学習状況等については、全国平均を下回っており課題がある。今年4月の調査であるため、コロナ禍による制限を受けた影響も見て取れる。

(主な意見要旨)

- ・課題となっている「書く力」の育成については、第十三中学校区健全育成会の意見発表会の取組みを活用してほしい。今回は、第37回目でSDGsを題材にしている。
- ・児童質問紙調査結果は、学校と全国平均の比較になっており、豊中市の状況と比較した丁寧な分析もほしい。
- ・タブレット端末の活用や家庭でのネット環境が進んできている。学校ではチャットGPTや生成AIは使えないが、家庭で使うことが今後増えてくる。フェイク動画等、情報が正しいか否か「見抜く力」が大事となる。その「見抜く力」の育成を進めてほしい。
- ・算数の学習状況は良好であった。算数を研究教科としていた。国語の学習状況に課題があり、昨年度より国語を研究教科としている。

(4) 熟議「学校と地域の行事について」

○会議資料に基づき、学校と地域の年間行事日程について事務局より説明した後、大池万博の開催時期について熟議を行う。

- ・10月運動会、11月大池万博、12月学習発表会、作品展、個人懇談とある。大池万博は、11月の土曜は外部団体の活動があるため11月の土曜の開催は避けてほしいという声がある。学校と地域の両方の年間行事日程を見て、開催時期について悩んでいる。

(主な意見要旨)

- ・以前は、11月大池科学博、12月PTAの大池フェスティバルを行っていたが大変なので、大池万博に統合された。大池科学博は任意参加であったが一昨年度は授業日とした。昨年度からの大池万博は授業日としている。任意参加にすると教職員の参加は難しく、全校児童対象でなくなるとPTA予算の支出も難しいところがある。
- ・大池科学博は、もともとは学校週5日制が導入された際、子どもの居場所づくりの一環として土曜スクールを行ったのが始まり。西澤校長が土曜スクールに科学的なものを取り入れて大きくなっていった。当初、土曜スクールにPTAも協力していたが大きくなりすぎて、形を変えて地域子ども教室主催となり大池科学博として行ってきた。
- ・以前は、PTA主催の大池カーニバルが7月末か8月にあったが、PTA総会から日程が短く、20年程前から12月に大池フェスティバルとした。そして、昨年度より大池科学博と大池フェスティバルを統合した。
- ・学校独自での開催にすると、PTA主催のフェスティバル的な催しが全くなくなってしまう。
- ・大池万博の全体的な評価は、大池万博反省会が出る。
- ・年度末までに次年度の開催時期を決めたいが、関係者にご意見を伺って決めていきたい。

(5) 連絡

○事務局より、次回以降の日程についての連絡を行った。

- ・第3回：2月 後日、日程調整をして決める。